ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									
シートNO.									

ボーリング名	No.33B-2	調査位置				北　緯	36 ° 42 ’ 13.0000 ”
発注機関	栃木県烏山土木事務所　整備部			調査期間	2010-03-10 ～ 2010-03-13	東　経	140 ° 10 ’ 25.0000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	116.28 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 30.00 °	使用機種	試錐機	ハンマー落下用具	
総掘進長	13.02 m								エンジン	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	115.18	1.10	1.10		礫混じり粘土 (CH-G)	暗褐		極軟	上部10cmは腐植土 崩積土とみられ高含水な粘土主体 礫・木片を混入している		
2	113.68	1.50	2.60		粘土混じり砂礫 (GS-C)	淡褐	非常に密な		φ5～50mmの角礫(砂岩)が主体 礫間はシルト混じりの細砂で充填され，密実に堆積している 地層に明瞭な乱れがないことから砂岩の強風化部である可能性が高い		
3	109.38	4.30	6.90		風化砂岩 (Ss)	灰褐～褐灰			風化しており，若干の変質がみられる。 割れ目が非常に多く，礫状～岩片状コアが主体。 所々に長さ10cm強の柱状コアがある。 2.60～2.75m間は柱状コアを呈し硬質。 2.75～4.80m間は割れ目に粘土を介在し一部は土砂状。 4.80～6.90m間は岩片状コア主体で，所々に柱状コアを点在。		03/12 5.30
7	108.98	0.40	7.30		風化頁岩 (Sh)	黒灰			細礫状のコア主体，マトリックスが溶解し流失。		
8	108.28	0.70	8.00		風化砂岩 (Ss)	褐灰			7.30～7.50m間は柱状を呈すも，以深は割れ目が非常に多く礫状コア主体。		
9	107.28	1.00	9.00		砂岩 (Ss)	青灰			岩質新鮮で割れ目少ない。 5~40cmの長い柱状コアを呈し極硬質。		
10	106.88	0.40	9.40		風化砂岩 (Ss)	暗灰			割れ目が非常に多く礫状コア主体。		
	106.13	0.75	10.15		風化頁岩 (Sh)	黒灰			風化しており細礫状～礫状コア主体。 割れ目に沿って土砂部がみられる。		
11	103.26	2.87	13.02		砂岩 (Ss)	暗灰			岩質はやや新鮮であるが割れ目は多い。 割れ目は断続的に多くみられ割れ目の少ない部分は5～30cmの柱状コアを呈す 11.70～12.00m間は，やや頁岩質で一部は細礫状を呈す。 全体に割れ目は密着しており，割れ目の酸化,変質もない。		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	4	13	25	42／30	42
1.45	50			50／10	>50
2.15					
2.25	50／2			50／2	>50
3.00					
3.02	50／5			50／5	>50
4.00					
4.05	50／3			50／3	>50
5.00					
5.03	50／4			50／4	>50
6.00					
6.04	50／5			50／5	>50
7.00					
7.05	50／1			50／1	>50
8.00					
8.01	50／8			50／8	>50
9.00					
9.08	50／5			50／5	>50
10.00					
10.05	50／1			50／1	>50
11.00					
11.01	50／2			50／2	>50
12.00					
12.02	50／2			50／2	>50
13.00					
13.02					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
1.15	33B-2	㊀
1.45		

室内試験

掘進月日: 03/10, 03/11, 03/12, 03/13, 03/15